



大幸薬品

2022年12月期 (FY2022) 第1四半期 連結決算報告

2022年5月

大幸薬品株式会社

証券コード：4574

1. 第1四半期 連結決算業績

2. 第1四半期 セグメント別事業概況

3. 今後の見通し



1. 第1四半期 連結決算業績

収益認識基準の適用による前期数値の組替について

- 2022年12月期より「収益認識に関する会計基準」等を適用
- 前期第1四半期における売上高への影響は△153百万円、営業利益への影響はなし
- 本資料では前期比較を容易にするため、前期数値も会計基準適用後(新基準※)の数値に組替

〔主な変更点〕

- ・ 顧客へのリポート費用等について、費用計上ではなく、売上高から減算しております
- ・ 将来の返品に伴う返金見込額について、従来の返品調整引当金ではなく、返金負債を認識し、係る影響額を売上高から減算しております

(単位:百万円)

■ 前期同期実績	FY2021 (従来基準)	FY2021 (新基準※)	差異
	第1四半期 累計実績	第1四半期 累計実績	
売上高	3,271	3,118	△153
売上総利益	2,006	1,846	△160
販管費	2,197	2,036	△160
営業利益	△190	△190	-

※前期の新基準は監査法人による監査を受けていない参考値

- 売上高は、感染管理事業の需要減少や消費者庁による措置命令の影響により大幅減収
- 販管費の圧縮に努めたものの、減収影響や棚卸資産評価損等の計上、措置命令に伴う返金見込の計上により大幅な営業損失

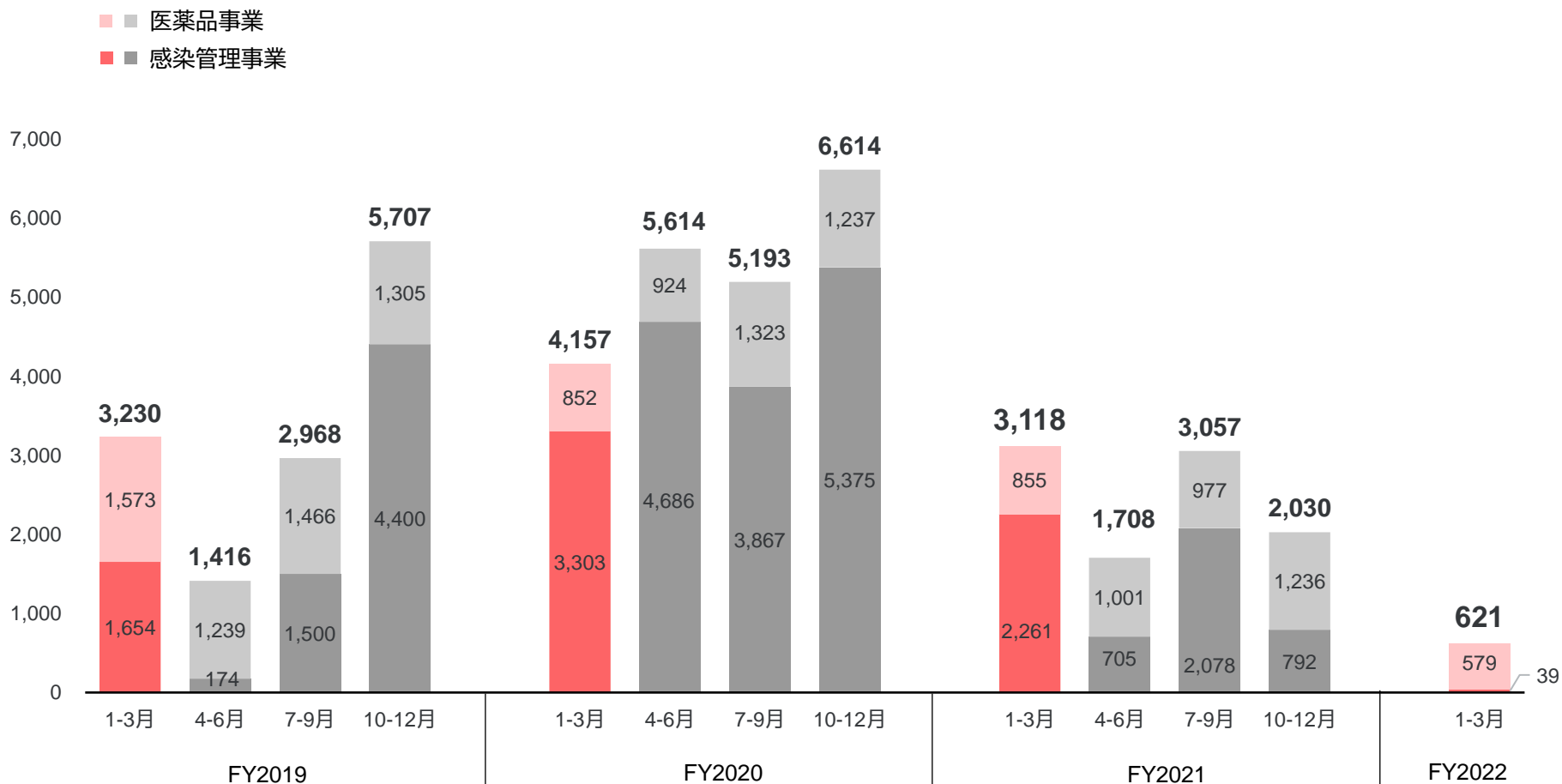
(単位:百万円)

	FY2021(新基準)		FY2022		増減額 (調整後)	増減率 (調整後)
	第1四半期 累計実績	売上比	第1四半期 累計実績	売上比		
売上高	3,118	-	621	-	△2,496	△80.1%
売上総利益	1,846	59.2%	△540	△86.9%	△2,386	-
販管費	2,036	65.3%	1,131	182.1%	△905	△44.4%
営業利益	△190	△6.1%	△1,672	△269.0%	△1,481	-
経常利益	△232	△7.5%	△1,743	△280.5%	△1,510	-
四半期純利益	△147	△4.7%	△1,748	△281.4%	△1,601	-

連結売上高推移 (四半期)

- 医薬品事業は海外向けの出荷時期の影響により減収
- 感染管理事業は市場全体の縮小影響を受けた他、措置命令の各種影響により大幅減収

(単位:百万円)



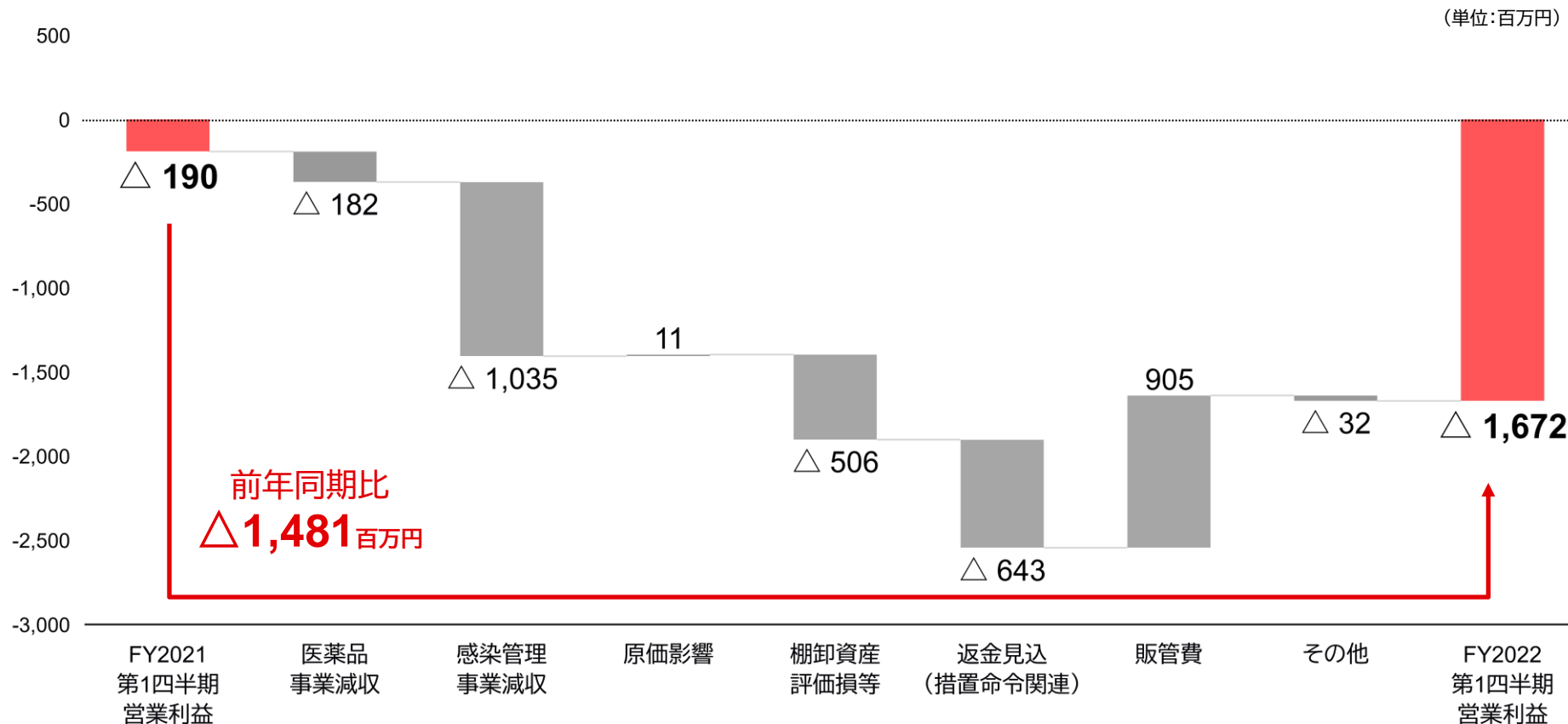
※2020年以前は従来基準での数値

← 従来基準

→ 新基準

営業利益の変動要因

- 感染管理事業の減収や棚卸資産評価損等の計上、措置命令に関連する返金見込の計上によって営業利益は大幅減益
- 販管費は前年同期比で大幅圧縮



販売費及び一般管理費

- 構造改革の推進によって、広告宣伝費の見直しや運送費(在庫保管料)の削減等が進み、販売費、人件費、経費ともに前期比では大きく減少

(単位:百万円)

	FY2021(新基準)		FY2022		増減額 (調整後)	増減率 (調整後)
	第1四半期 累計実績	構成比	第1四半期 累計実績	構成比		
販売費及び一般管理費合計	2,036	-	1,131	-	△905	△44.4%
販売費	1,057	51.9%	306	27.1%	△750	△71.0%
広告宣伝費	753	37.0%	97	8.6%	△655	△87.0%
販売促進費	77	3.8%	81	7.2%	+4	+6.1%
運送費	227	11.2%	126	11.2%	△100	△44.1%
人件費	514	25.2%	426	37.6%	△88	△17.1%
その他経費	465	22.8%	399	35.3%	△66	△14.2%
研究開発費	122	6.0%	121	10.7%	△1	△1.1%
支払手数料	163	8.0%	121	10.7%	△42	△25.8%

経常利益・四半期純利益

- 感染管理事業に係る工場の操業停止が前期第2四半期より継続しており、操業停止関連費用を営業外費用に計上

(単位:百万円)

	FY2021(新基準) 第1四半期 累計実績	FY2022 第1四半期 累計実績	前期比	増減要因等
営業利益	△190	△1,672	△1,481	
営業外収益	40	22	△17	主に為替差益の影響
営業外費用	82	94	+11	主に操業停止関連費用の影響 ※前期第2四半期より計上
経常利益	△232	△1,743	△1,510	
特別利益	-	-	-	
特別損失	-	2	+2	
税金等調整前四半期純利益	△232	△1,745	△1,512	
法人税、法人税等調整額	△85	3	+88	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△147	△1,748	△1,601	

- 棚卸資産は27億円まで縮小(内、感染管理の棚卸資産は15億円)
- 第1四半期で17億円の四半期純損失を計上したものの、当面の運転資金は確保

(単位:百万円)

	FY2021 期末	FY2022 第1四半期末	前期比	増減要因等
流動資産	13,783	11,512	△2,271	
現金及び預金	5,796	6,320	+532	
売上債権	4,056	1,282	△2,773	債権の回収により減少
棚卸資産	3,206	2,774	△431	医薬品在庫高 1,206百万円 感染管理在庫高 1,539百万円
固定資産	8,751	8,202	△549	
資産合計	22,535	19,714	△2,821	
流動負債	4,320	3,506	△814	未払金、その他流動負債の減少
固定負債	5,407	5,092	△314	長期借入金の減少
純資産	12,807	11,115	△1,692	四半期純損失の計上等
負債純資産合計	22,535	19,714	△2,821	
自己資本比率	56.8%	56.4%		



2. 第1四半期 セグメント別事業概況

セグメント別事業概況

- 医薬品事業 : 海外向けの減収や京都工場稼働に伴う固定費の増加により減益
- 感染管理事業 : 大幅な減収影響や棚卸資産の評価損の計上等により大幅減益

(単位:百万円)

		FY2021(新基準) 第1四半期 累計実績	FY2022 第1四半期 累計実績	増減額 (調整後)	増減率 (調整後)
医薬品事業	売上高	855	579	△275	△32.2%
	セグメント損益	287	13	△273	△95.3%
	利益率	33.6%	2.3%	-	-
感染管理事業	売上高	2,261	39	△2,221	△98.3%
	セグメント損益	△97	△1,318	△1,221	-
	利益率	△4.3%	-	-	-
その他事業	売上高	1	2	+0	+26.1%
	セグメント損益	△7	△6	+1	-
	利益率	△480.4%	△303.9%	-	-

- 新型コロナウイルスによるインバウンド需要の減少や外出自粛等による影響は一巡
- 夏の需要期に向け、正露丸120周年キャンペーン等により更なる需要回復を目指す

製品カテゴリー別売上高

(単位:百万円)

	FY2021(新基準)	FY2022	増減額 (調整後)	増減率 (調整後)
	第1四半期 累計実績	第1四半期 累計実績		
国内医薬品事業売上高	570	557	△12	△2.2%
正露丸	250	251	+1	+0.5%
セイロガン糖衣A	373	357	△16	△4.3%
正露丸クイックC	14	16	+2	+15.9%
その他 ※1	14	15	+1	+8.7%
返品・値引・協賛等	△81	△82	△1	—

※1 整腸薬「ラッパ整腸薬BF」、止瀉薬「ピシヤット」等

正露丸



セイロガン糖衣A



正露丸クイックC

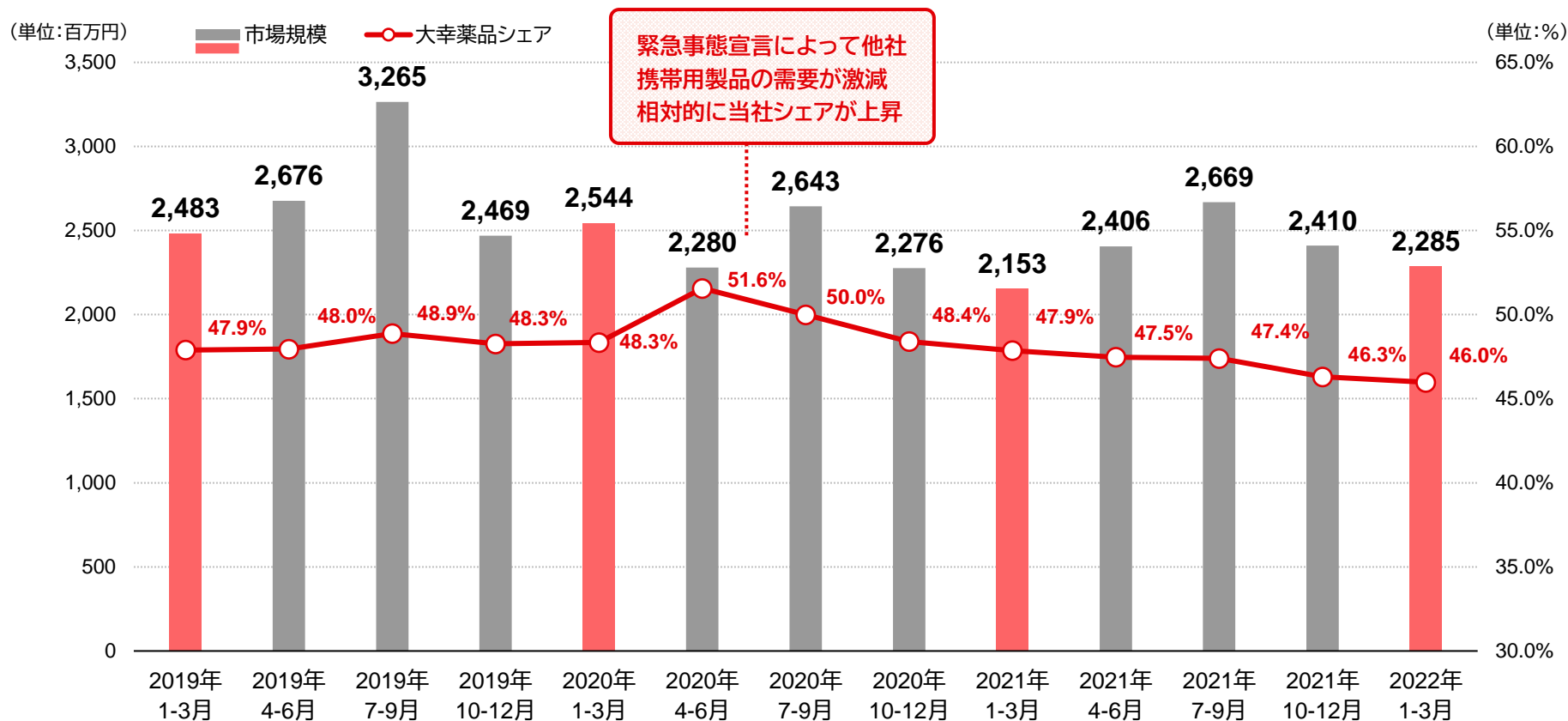


ピシヤット下痢止めOD錠



- 国内止瀉薬市場のシェアは微減傾向が継続
- 天然由来の生薬配合の胃腸薬として、止瀉薬以外での利用も促進し、売上拡大を目指す

国内止瀉薬市場



※出所: 株式会社インテージSRI+、店頭小売価格ベース

- 前期は中国や台湾での輸出ライセンス更新に関連する先行出荷が発生
- 主力の中国等での需要は回復傾向にあり、通期では前期比増加を見込む

地域別売上高

(単位:百万円)

	FY2021(新基準)	FY2022	増減額 (調整後)	増減率 (調整後)
	第1四半期 累計実績	第1四半期 累計実績		
海外医薬品事業売上高	284	22	△262	△92.2%
中国	147	36	△110	△75.1%
香港	37	—	△37	—
台湾	111	—	△111	—
その他対象エリア ※1	7	—	△7	—
返品・値引・協賛等	△18	△14	+4	—

※1 米国、カナダ、タイ、マレーシア、ベトナム、モンゴル

正露丸



セイロガン糖衣A



- 第1四半期は、措置命令の影響もあり積極的な営業、マーケティング活動が難しい状況であったため、全般的に売上は大きく減少
- 新パッケージへの切り替えに合わせ、今後2022年秋冬の商談を強化

■ 対象顧客別売上高

(単位:百万円)

	FY2021(新基準)	FY2022	増減額 (調整後)	増減率 (調整後)
	第1四半期 累計実績	第1四半期 累計実績		
感染管理事業売上高	2,261	39	△2,221	△98.3%
国内一般用	1,877	501	△1,376	△73.3%
国内業務用	481	217	△264	△54.9%
海外	83	50	△33	△40.0%
返品・値引・協賛等	△181	△729	△547	—

クレバリン

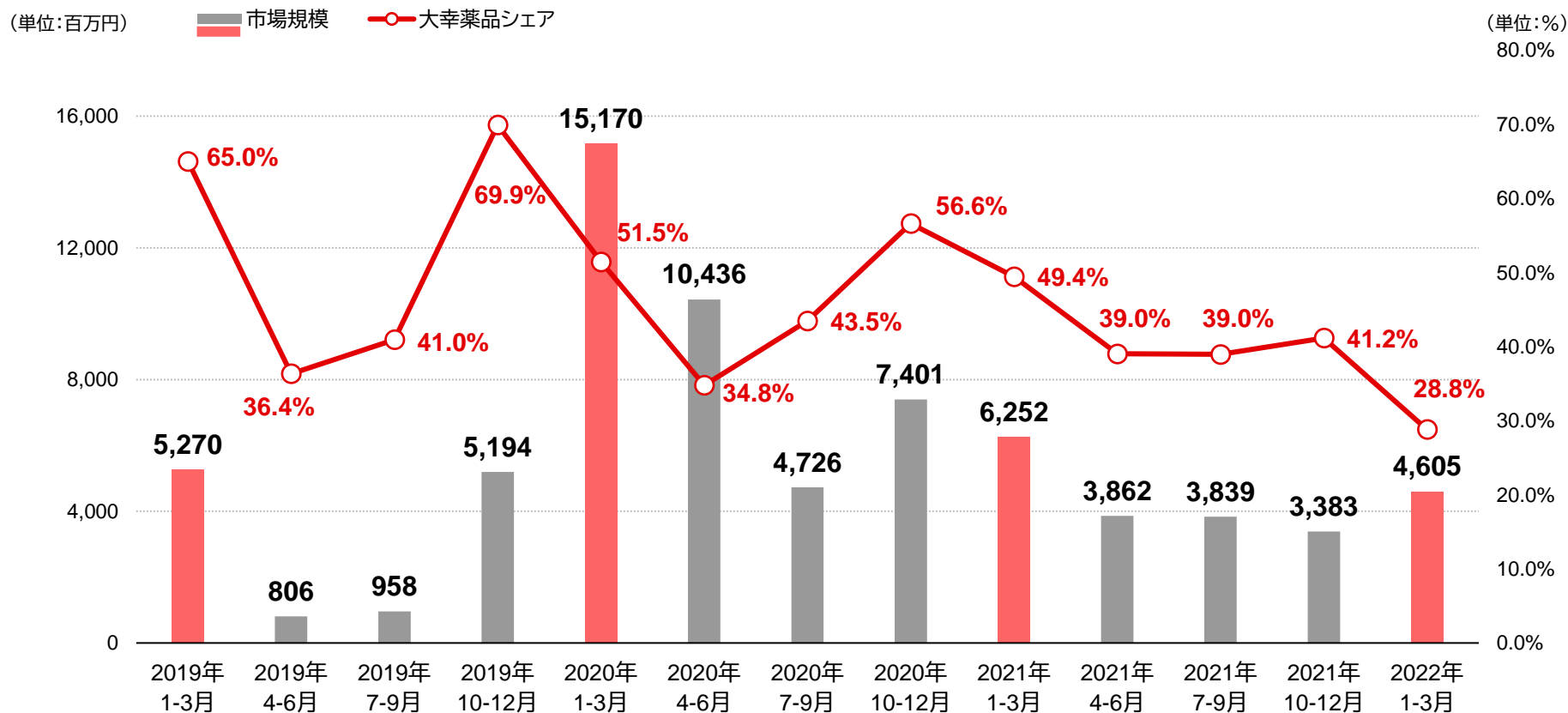


クレバ&アンド



- 前年同期(1-3月)比では市場減少も、前四半期(10-12月)比では市場増加
- 当社シェアは噴霧型のシェア低下により減少

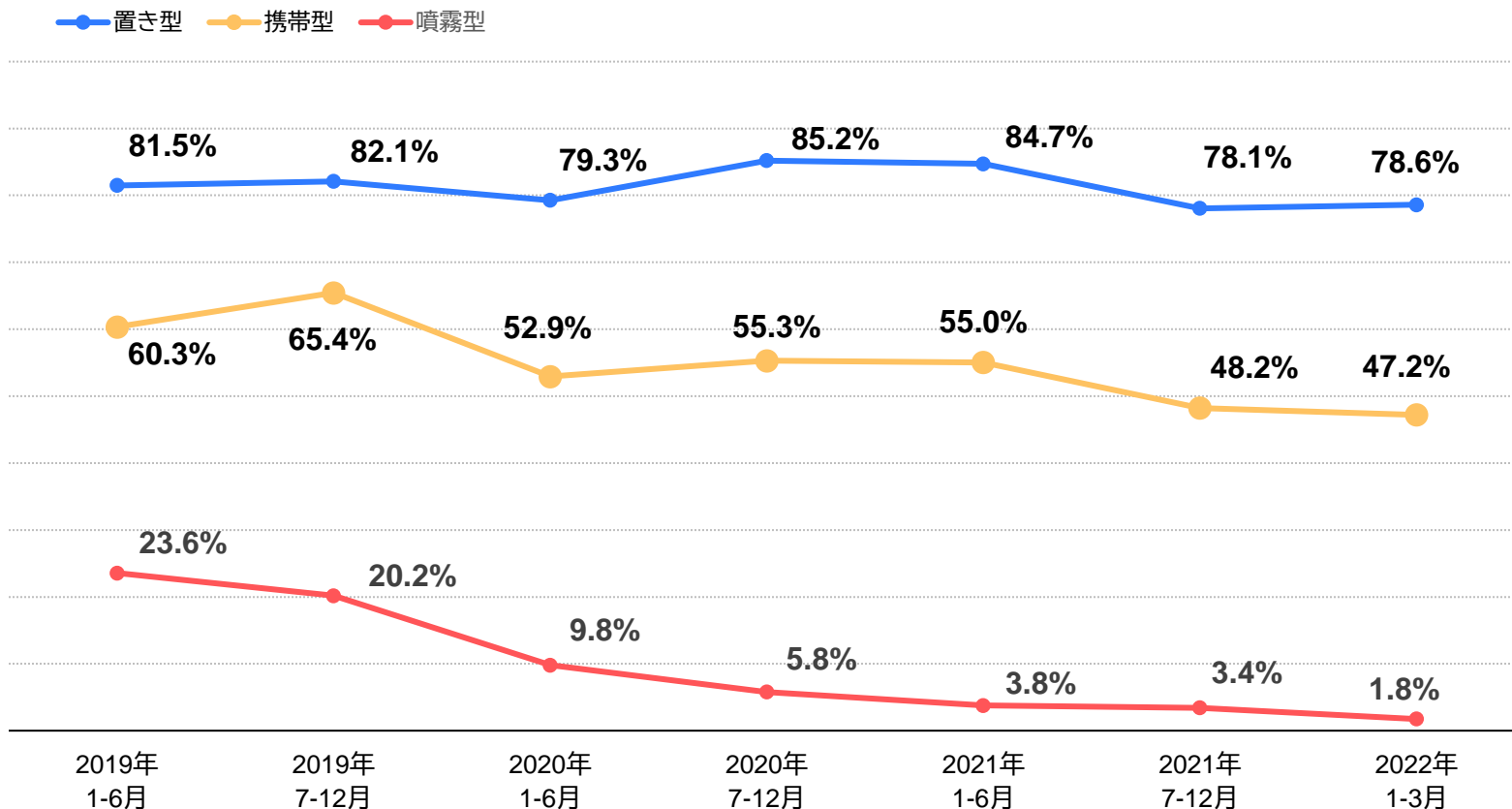
国内ウイルス除去市場



※出所:株式会社インテージSRI+、店頭小売価格ベース

- 置き型、携帯型のシェアはほぼ横ばいも、市場規模は減少傾向
(噴霧型のみ大手参入により市場規模が増加傾向)
- 4月以降パッケージ切り替えまではシェア減少を見込む

国内ウイルス除去市場 **分類別シェア**



※出所: 株式会社インテージSRI+、店頭小売価格ベース

- 当社は、2022年1月20日及び同年4月15日に受けた消費者庁による「クレベリン(6品目)」の表示に関する措置命令に従うこととし、5月3日付で社告及び当社WEBサイトへのお知らせを掲載致しました。
- ご利用頂いているお客様、お取引先様、株主様をはじめとする関係者の皆様に多大なご迷惑をおかけすることとなり、深くお詫び申し上げます。
今後、当社に対する信頼回復に全力で努めてまいります。
- 「クレベリン」は二酸化塩素分子のチカラに着目し、独自の特許技術を用いた製品であり、低濃度二酸化塩素ガスの商用利用に当たっては、各種規格や試験方法等が確立途上であることから、今後は関連機関とも連携した上で、誤解のない表示に努めてまいります。
 - 措置命令に対応するため、パッケージ等の変更が必要となり、一時的にドラッグストア等の店頭で「クレベリン」のご購入ができない可能性がございます。
 - 速やかにパッケージ等を変更し、ご愛用頂いているお客様にお届けできるよう取り組んでまいります。



3. 今後の見通し

- 業績結果を真摯に受け止め、経営責任の明確化及び人件費削減を目的に役員報酬等の減額(期間の延長及び減額幅の拡大)を決議

役員報酬減額の内容

- 代表取締役(2名) 月額報酬の80%
※代表取締役は2021年8月から減額
- 執行役員(5名) 月額報酬の40%
※執行役員は2022年3月から減額

対象期間

- 2022年6月から7ヶ月間

- 消費者庁の措置命令に伴う今後の感染管理事業の売上高への影響を見極めている段階であり、現時点で、2022年12月期の連結業績予想は『未定』とさせていただきます。
- 業績見通しが明らかになり次第、公表させていただきます。
- なお、医薬品事業の売上見通しは以下の通り期初予想から変更ございません。

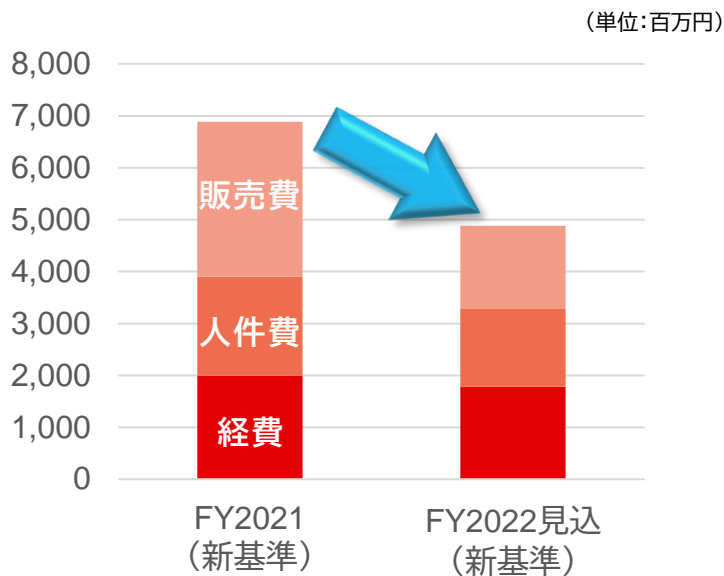
■ 医薬品事業の売上見通し

(単位:百万円)

	FY2021 実績 (従来基準)	FY2022 予想 (従来基準)	FY2021 実績 (新基準)	FY2022 予想 (新基準)	増減額 (新基準)	増減率 (新基準)
医薬品事業	4,350	4,429	4,069	4,174	+105	+2.6%
国内医薬	3,105	3,044	2,894	2,839	△55	△1.9%
海外医薬	1,244	1,385	1,174	1,335	+161	+13.7%

- 前期及び当四半期の大幅な純損失の計上に加え、感染管理事業の業績回復が不透明な状況の中、抜本的な事業構造改革を推進

■ コスト削減による販管費の見通し(通期)



- 固定費の削減や販管費の効率的な使用により、前期比で**20億円**のコストダウンを目標に見直しを推進中

構造改革を進め、『リバイバルプラン』の策定を急ぐ



大幸薬品

将来情報に関する注意事項

当資料に記載されている将来情報は、種々の前提に基づくものであり、
将来の計画数値や施策の実現を確約したり、保証したりするものではありません